



「Climate Action 100+」に参加しました

GPIF は、環境・社会問題などが市場に与える負の影響を減らし、運用資産全体の長期的なリターンを向上させるため、ESG(環境・社会・ガバナンス)を考慮した投資を推進しています。

GPIF はこのたび、「Climate Action100+」にサポーターとして参加することを表明しました。「Climate Action100+」は、グローバルな環境問題の解決に大きな影響力のある企業と、情報開示や温室効果ガス排出量削減に向けた取組みなどについて建設的な対話を行う機関投資家の世界的なイニシアティブです。現在、年金基金をはじめとするアセットオーナーと運用会社など300近い機関が参加しています。

GPIF は、運用受託機関と投資先企業との間で、ESG も考慮に入れた建設的な対話を促進することで、市場全体の持続可能性向上に努めてまいります。

Climate Action100+概要



・2017年9月に発足した投資家主導の5カ年イニシアティブ。31兆USドル(3,527兆円)を運用する296機関が参加。温室効果ガス排出量の多い企業に対し、気候変動にかかるガバナンスの改善、排出量削減、気候関連財務情報開示の強化を求めるエンゲージメントを行う。2017年12月12日にフランスで開催された One Planet Summit で正式に始動。

・PRI(責任投資原則)と気候変動対応を企業に求める4つの機関投資家団体によって支援、組織された。

・参加区分は Participant(パーティシパント)と Supporter(サポーター)の2つ。パーティシパントはサインオンステートメントへの公式な賛同と企業との直接対話(エンゲージメント)が求められる。サポーターはアセットオーナーのみが対象。サインオンステートメントへの公式な賛同が求められるが、エンゲージメント活動への参加は求められない。(Climate Action100+HP 資料より GPIF 作成)